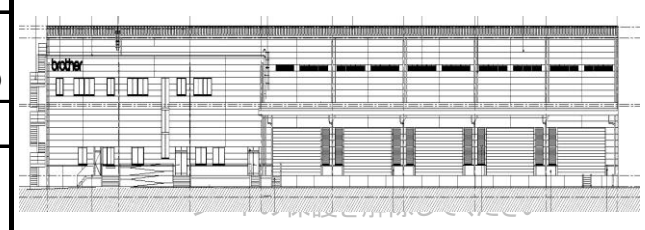
CASBEE名古屋 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)港第1倉庫新築工事	階数	地上2F
建設地	愛知県名古屋市港区港明1丁目1015-3の一部	構造	S造
用途地域	市街化区域、準防火地域	平均居住人員	45 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,928 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年11月 予定	評価の実施日	2020年11月18日
敷地面積	12,505 ㎡	作成者	
建築面積	6,337 ㎡	確認日	2020年11月19日
延床面積	11,796 ㎡	確認者	

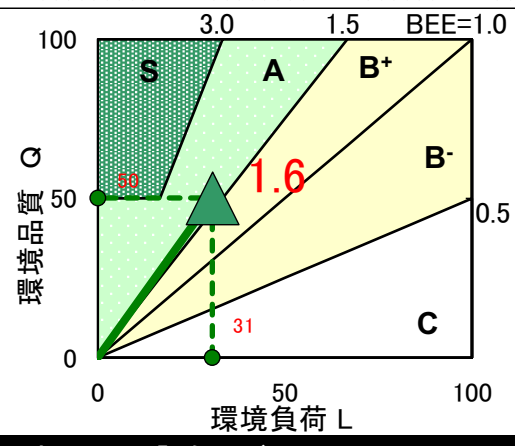
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート

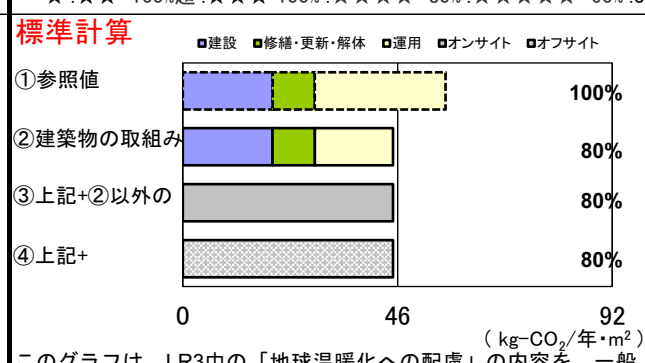
= BEE 1.6

★ :S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C



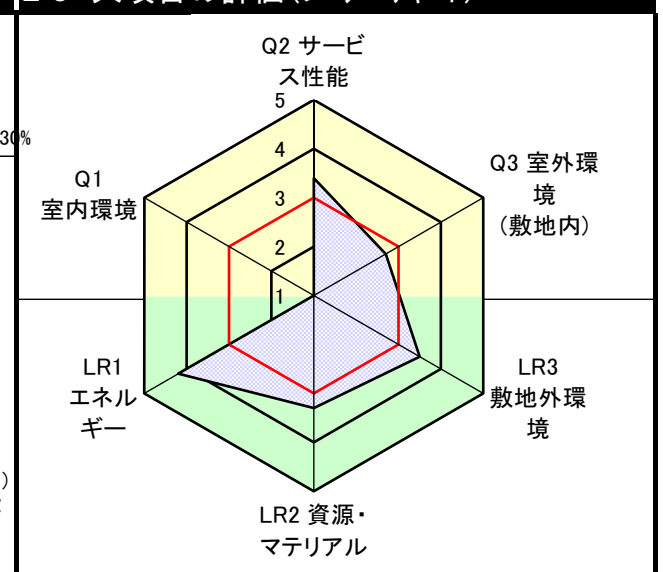
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

☆ :☆☆ 100%超 :☆☆☆ 100% :☆☆☆☆ 80% :☆☆☆☆☆ 60% :30%



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

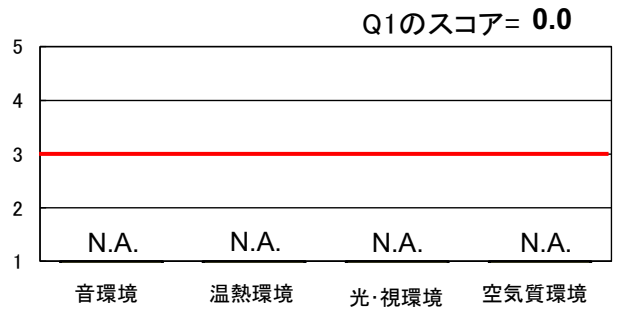
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



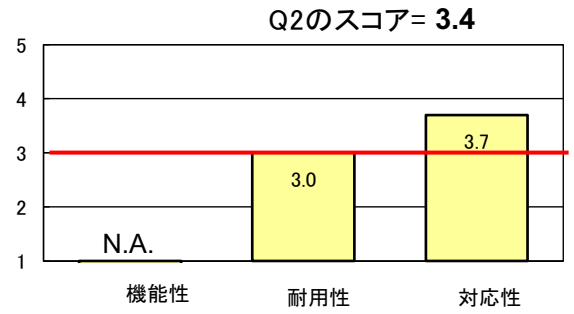
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　Q のスコア= 3.0

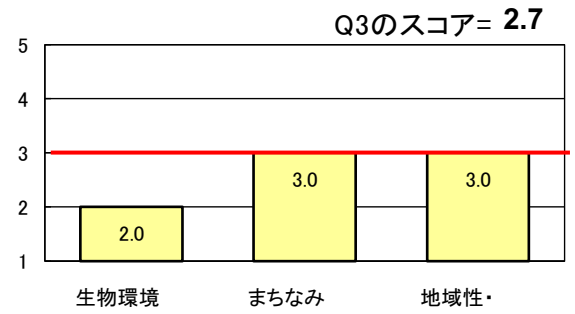
Q1 室内環境　Q1のスコア= 0.0



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.4

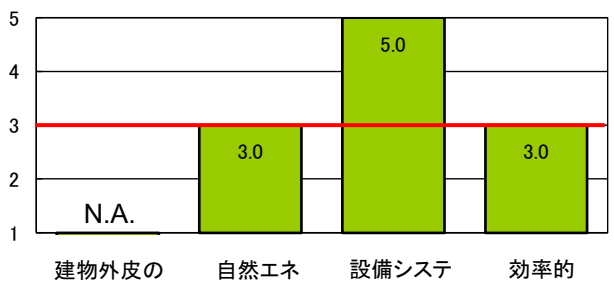


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.7

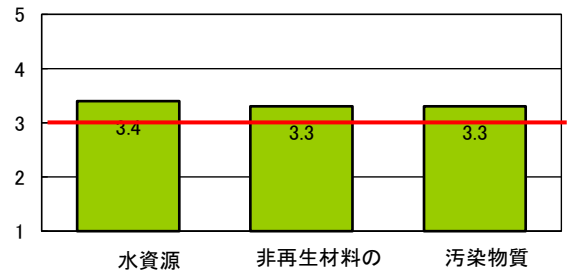


LR 環境負荷低減性　LR のスコア= 3.7

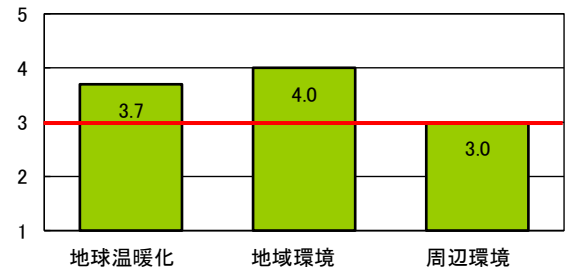
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.2



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.3



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.5



3 設計上の配慮事項

総合

・周囲の景観に配慮した植栽計画を行った。
・大型車両が出入りするため、敷地内の交通導線の整理し一方通行とした。

その他

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境（敷地内）
・評価対象外	・設備機器の設置や更新が容易に行えるように、事務所の屋上部分にバックアップスペースを確保した。 ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高・空間の形状・自由さのゆとりのある計画を行った。	・建物の周囲に適切な植生を行い、良好な緑化空間を計画した。 ・隣接する公園から見える植栽には、サツキを植樹し四季を感じられる計画をした。
LR1 エネルギー	**LR2 資源・マテリアル**	**LR3 敷地外環境**
・LED照明を採用し、倉庫内は熱線センサを設置し設備システムの高効率化を図った。	・節水型の器具を採用した。	・燃焼機器を使用しておらず、外部空間に対して大気汚染物質を全く発生させない。 ・敷地周辺に植栽を計画することで、周辺環境へ配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE名古屋　評価結果

重点項目スコア・結果シート

(仮称)港第1倉庫新築工事

■使用評価マニュアル：　CASBEE−建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト：　CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目			評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1．温暖化対策					4.1
LR1	エネルギー		4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮		3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善		4.0	0.05	
2．自然共生					2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出		2.0	0.170477235	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.017047724	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮				
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.085238618	
3．循環型社会					3.3
LR2.1	水資源保護		3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減		3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制　※2		3.0	0.01875	

結果

1．温暖化対策　評価点　＝ 4.1

2．自然共生　評価点　＝ 2.3

3．循環型社会　評価点　＝ 3.3

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み})\text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1　ここでは、Q3．3．1の評価する取組みのうち評価項目　Ⅰ　2）地域性のある材料の使用　又は、Q3．2において評価する取組みのうち評価項目　4）地域性のある素材による良好な景観形成　のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3．3．1の全体に対する重みに0．2を乗じたものとしている。

※2　ここでは、LR3．2．3のうち、LR3．2．3．3　交通負荷抑制　を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3．2．3の評価点とは異なるものである。